

平成 19 年度 江戸川区「行政評価」事務事業分析シート

整理番号	18	作成日	平成 19 年 7 月 6 日
事業名	チャレンジ・ザ・ドリーム		
所属名	教育委員会事務局 指導室 指導主事・事務係	電話番号	(03) 5662-1635 (直通)

事業の目的・概要・対象者等	《事業の目的及び概要》	《事業の開始年度》	平成 17 年度
	〔概要〕 区立中学校33校の全2年生を対象として、連続5日間（原則）の職場体験を実施しています。事業実施にあたっては、区内事業所を中心に生徒の受け入れの協力を得ています。教育課程上、総合的な学習の時間などに位置付けて、計画的に実施しています。		
	〔目的〕 1 コミュニケーション能力や社会性及び思いやりの心などの道徳性を身に付ける。 2 様々な生き方に触れることにより、自分の将来を考える機会とする。 3 望ましい勤労観・職業観を持ち、自らが進路を選択・決定していくことに必要な能力・態度を身に付ける。		
	【平成18年度在籍数】	区立中学校33校の2年生全員	
	対象者	4,805人	ただし、健康上の理由などにより参加できない場合があります。

活動指標	活動指標	参加生徒数	活動指標	実施事業所数
	18年度	4,645人 (17年度) 4,657人	18年度	1,441事業所 (17年度) 1,283事業所

成果・目標指標	成果・目標指標	生徒が大変良いと評価した率	成果・目標指標	協力事業所率
	18年度	76.0%	21年度目標	100%
	18年度	66.5%	21年度目標	80%
	説明	事業実施後に生徒を対象にアンケートを実施しています。保護者や地域の協力を得ながら、課題点の改善を行い、全ての生徒が体験して本当によかったと思える事業を目指します。	説明	協力を依頼した事業所2,275事業所のうち、協力受諾事業所は1,513事業所です。江戸川区の特色である、地域力を生かした共育に向け、事業の主旨をご理解いただき、より多くの受入事業所の開拓を目指します。

経費の概要	18年度事業実施経費	9,430千円	経費の説明				
	内訳	参加生徒1人あたりの経費は、約2,030円です。 *事業所へ謝礼金は支払っていません。					
	【人件費と担当職員数】	<table border="1"> <tr> <td>ア 常勤職員</td> <td>0.5人</td> </tr> <tr> <td>イ 非常勤職員</td> <td>0.0人</td> </tr> <tr> <td>ウ 臨時職員</td> <td>0.0人</td> </tr> </table>		ア 常勤職員	0.5人	イ 非常勤職員	0.0人
ア 常勤職員	0.5人						
イ 非常勤職員	0.0人						
ウ 臨時職員	0.0人						
	4,182千円	他の経費は、周知用ポスター・パンフレット・ステッカー、生徒用ワークシート等の印刷、損害賠償保険料、検体検査料、教員旅費、消耗品等です。*生徒の交通費・昼食費は自費負担です。 なお、区へは、東京都から、「中学生の職場体験事業研究事業費委託金」として@3,000×33校=99,000円の歳入があります。*教員の人件費は算定していません。					

その他	《実施の根拠となる法令等》	平成19年度「チャレンジ・ザ・ドリーム」実施要綱・同細目
	《民間委託やボランティアなどとの協働の状況》	事業所の協力があって実施できる事業です。
	《区民からのご意見やご要望》	<ul style="list-style-type: none"> 学校の授業では体験できない挨拶や礼儀作法、人との関わり方について学んだようだ。（保護者の意見） 従業員だけでは慣れが生じてくるが、学生が入ることで会社が活性化されるのを感じた。（事業所の意見）

平成19年度 江戸川区「行政評価」内部評価シート

整理番号	18	事業名	チャレンジ・ザ・ドリーム
		所属名	教育委員会事務局 指導室 指導主事・事務係

所管課長評価

評価項目	評価及び・評価の視点	所管課コメント
1 有効性	有効である A <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 有効でない	社会性や道徳性等の規範意識を身に付けるため、学校や家庭以外の様々な大人から指導や評価を受けることは、学校の授業では教わらない貴重な体験です。
	・事業の目的を達成するために有効である。	
2 公平性	公平である A <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 公平でない	家庭や事業所からは、3日目くらいから子どもが変わっていく、という感想が寄せられています。
	・対象者や実施回数等は適切である。 ・受益者負担の額は適切である。	
3 民間活力の活用	現状ままでよい <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> C 促進したほうがよい	共育・協働の理念のもと、さらに民間事業所等の協力を依頼していきます。
	・ボランティアやNPOと協働して実施したほうがよい。 ・民間事業者へ委託等したほうがよい。	
4 効率性	現状ままでよい <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 改善の必要がある	今後もより多くの受入事業所を増やし、体験しやすい環境を整えるため、費用対効果を考慮しながら検討していきます。
	・効率的に実施するために、工夫、改善等の必要がある。 ・経費を削減できる。	
5 必要性	必要である A <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 必要ない	職場体験により、自分自身を振り返り、自覚をもった行動や将来を考える機会になったことなど、いろいろな成果が発表されています。
	・事業の目的を果たすためには公費を投じて実施するべき事業である。	

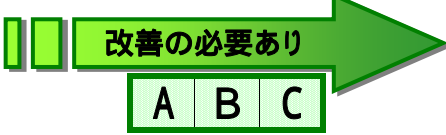
所管部長の意見等

区立全中学校を対象に5日間の職場体験を実施している区市は都内でも数少なく、東京都教育庁の「わく(Work)わく(Work)Week Tokyo(中学校の職場体験)」事業の参考事業になったり文部科学省の視察を受けるなど、注目を集めている。
 今後は、事業所や家庭に対し、職場体験に対する理解と協力が得られるようPR活動等の支援を行ない、受入事業所の一層の開拓を進め、共育・協働の理念のもと地域力を活用し、地域で子どもを守り育てる取り組みを行なっていきたい。

平成19年度 江戸川区「行政評価」外部評価シート

整理番号	18	事業名	チャレンジ・ザ・ドリーム
所属名		教育委員会事務局 指導室 指導主事・事務係	

外部評価委員会評価

評価項目	評価及び・評価の視点			備考
				
1 有効性	有効である	A	有効でない	
	・事業の目的を達成するために有効である。			
2 公平性	公平である	A	公平でない	
	・対象者や実施回数等は適切である。 ・受益者負担の額は適切である。			
3 民間活力の活用	現状ままでよい	B	促進したほうがよい	
	・ボランティアやNPOと協働して実施したほうがよい。 ・民間事業者へ委託等したほうがよい。			
4 効率性	現状ままでよい	A	改善の必要がある	
	・効率的に実施するために、工夫、改善等の必要がある。 ・経費を削減できる。			
5 必要性	必要である	A	必要ない	
	・事業の目的を果たすためには公費を投じて実施すべき事業である。			

外部評価委員の各意見

- ・素晴らしい施策であるが、成果・目標指標で100%というのは反抗期の生徒も含むため困難ではないか。
- ・受入れ事業所の数は、驚くべき数値だと思う。
- ・とてもよい施策で、受け入れる事業所など、協力していただける場が拡大されることを希望する。
- ・協力事業所の問題が大きい。各事業所に対し、説明会等が必要と思われる。
- ・受入れ事業所の苦勞も生徒には理解してもらいたい。
- ・中学2年生だけではなく、小さい時からいろいろな仕事を見学するなど、回数が増えるとなおよい。
- ・農業など、身体をつかう仕事もよいと思う。
- ・始めはあいさつのできなかった子でも、日に日に目つきが生き生きとして態度が変わってくるなど、成果を実感している。
- ・直接の業務ではなく、清掃などの単純作業になることもあり、就労体験の成果があるか、受入れ事業所としては悩むところである。